≪ 追加資料を巻末の付録USBメモリに収録しています ≫

第３部

特集3　Trusted Webの2021年度における活動

鈴木 茂哉、浅井 大史

Trusted Web協議会は内閣官房デジタル市場競争会議にて組成された協議会である。慶應義塾大学SFC研究所ブロックチェーン・ラボによるホワイトペーパ「ニューノーマル時代における人間の社会活動を支える情報基盤の在り方とデジタルアイデンティティの位置づけ」での議論を起点としており、2021年3月にホワイトペーパ(v1.0)「Trusted Webホワイトペーパー」を公開している。実際の議論やホワイトペーパの内容を煮詰める作業はタスクフォースで行われており、WIDEプロジェクト関係者が複数参加している。

Trusted Webで提案しているシステムアーキテクチャでは、デジタルアイデンティティ基盤を活用し、エンティティそれぞれから作り出される情報に対しての情報の出自と完全性の確認を可能とする。これにより、システム全体における信頼の検証可能性を高めつつ、検証のコストを下げる狙いがある。言うならば、信頼できる、真の自立広域分散されたシステムを構築することを目指している。

ホワイトペーパ(v1.0)にあるように、10年程でのデプロイメントを目指して議論を進めている。2021年度は、ユースケースによる検証とプロトタイプの開発によりTrusted Webのコンセプトについて検証し、ホワイトペーパの更新を目指している。

適用領域として、1) 個人に紐付く情報、2) 法人の活動に関わる情報、3) IoTの三種の領域を選んだ。本稿執筆段階においては、それぞれの適用領域においてユースケースの検討を進めてるとともに、個人に紐付く情報についてのプロトタイプ開発を進めている。三種類のユースケースそれぞれについての領域知識に基づいた要件をまとめたのちに、どのようなトラストフレームワークを組み合わせて必要となるトラストヒエラルキを構成するのかをまとめる。続けて、Trusted Webのコンセプトとの関係性を示すとともに、セキュリティ、プライバシーの視点での考察する予定である。現時点で、ホワイトペーパ(v1.0)で提示された「Trusted Webの4つの機能」は、ユースケースを適用するために議論不十分な部分であることが明らかになっている。このため、ユースケースからTrusted Webアーキテクチャモデルを再整理し、来年度開けにホワイトペーパを改訂する予定である。